

※ コナラ

土質を選びませんが、植えつける土には腐葉土や堆肥を混ぜてください。またコナラは根を深く広く張るので、とにかくスペースは広く取るようにします。日当たりで管理します。半日陰くらいなら大丈夫ですが、あまりに日陰だと枯れてきますので気をつけてください。肥料は2月

2月前後に剪定をします。

※ アオダモ

庭植えの場合は、腐葉土と堆肥を混ぜ、水はけが悪い場合は、川砂や腐葉土を混ぜて水はけを良くしてから植えます。肥料は3月と6月

日当たりに強いのですが、あまりに日当たりが強いと、真夏に乾燥して枯れ込むことがあります。ただし、みずやりを増やすことで予防できますし、落葉しただけでは枯れません。水をやれば回復します。

※ イロハモミジ

庭植えにした場合は、植え付け直後に水をしっかりやった後は水を控え、その後はほぼ降雨だけで大丈夫なのですが、日当たりがいいところに植えていると、葉っぱが焼けたり乾燥で葉っぱが丸まってしまったりと、意外と乾燥に弱く、よく見て水をやるなどしてください。

植え付けの適期は落葉期とされますが、真夏以外であればいつでも植え付けは可能です。

日当たりを好むのですが、西日が当たるような場所だと葉っぱが乾燥してカリカリになってしまいます。半日陰でも育ちますので半日陰に植えるのが無難です。そのまま放置して伸ばしていても不格好にならないのもイロハモミジのメリット。大きく樹形を乱す枝がある場合は切りますが、剪定は控え、自然な樹形を楽しむようにします。剪定は徒長枝を切る程度にする。肥料は特になし。

※ ジューンベリー

寒さに強く、夏の乾燥に若干弱いとされていますが、基本的に頑健で育てやすい。実つきも良いですが、おいしいのでヒヨドリなどに食べられやすいので、実を収穫するのであれば、鳥よけネットが必要になります。

庭植えした場合は、植え付け直後の二週間ほどは水をしっかりとやりますが、一旦根づいたら水をやる必要はありません。ただし真夏に日照りになり乾燥している場合は、水をやってください。水もちのよい土を好みますが、基本的に用土は選びません。よほど極端に水はけがよかったり、極端に水もちがよすぎないようならば大丈夫です。鉢植えであれば果樹用の土や一般的な培養土を利用します。

火傷病に気を付ける日当たりが良い場所で管理しますが、乾燥が苦手なので西日が当たる場所は避けてください。寒さには強いので防寒は必要ありません。

日当たりを好みますが、明るい日陰・半日陰でも大丈夫です。

日当たりが良い場所で管理しますが、乾燥が苦手なので西日が当たる場所は避けてください。寒さには強いので防寒は必要ありません。

日当たりを好みますが、明るい日陰・半日陰でも大丈夫です。

肥料3月

※ エゴノキ

湿り気のある土壌で、適度に剪定をしていくことが、美しく育てるポイントです。乾燥に弱いので、特に夏の水切れに注意してください。また、自然な樹形を楽しめるので強い剪定は必要ありませんが、枝が茂りすぎてしまうと幹に日が当たらず、生育が弱まってしまいます。

地植えは、植え穴を掘った土に腐葉土や堆肥をたっぷり混ぜておきましょう。

肥料は特に必要ありません。花を咲かせた後や寒い時期に、生育が悪いようであればゆっくりと効く緩効性化成肥料や油かすなどの有機肥料を与えてください。

半日陰でも十分育ちますが、日当たりの良い場所の方が花つきがよいです。水はけのよく、有機分を含んだ適湿な土に植えるのが良いでしょう。

※ユキヤナギ

日当たりと風通しの良い場所が最適です。日陰に植えると花つきが悪くなる上に生育も良くないので、できるだけ日当たりの良い場所を選びましょう。

寒さには強く霜に当たっても枯れることはないので防寒対策をする必要はありません。ちなみに秋に紅葉して冬には葉が全部落ちて枝の状態です。

真夏に極端に乾くときや植え付け直後以外は水を与える必要はありません。

できれば植え付ける前に腐葉土や堆肥を混ぜ込んでおきましょう。

肥料は1月から2月に1回、油かすと骨粉を7:3に混ぜたものを株元に与えます。同様の肥料を8月にも与えます。

※レッドロビン

赤いのは新芽。新芽だけが赤くなります。そこで、6月・7月あたりに一回刈り込んでおくと、新芽が出やすくなり夏に赤くて綺麗な生垣になります。次は9月、年を越して3月です。植え付け直後に水をしっかりとやったら、あとは降雨だけで十分です。真夏の日照りや乾燥したときは、水をやってください。

レッドロビンの根の活動が静かな4月・5月あたりに植え付けをします。ポット苗で植えます。成長したレッドロビンの移植は不可能とを考えてください。ある程度育ったら移動させるということはありません。

※ブルーベリー

ブルーベリーは、水もちがよい酸性の土を好みます。鉢植え、地植えともにピートモス5~10:鹿沼土0~5ほどの割合で混ぜた土がおすすめです。市販のブルーベリー用土を使ってもかまいません。ピートモスは、酸性が強く水もちがよい土なので、植え替えや肥料を追加するときに株元へ補充すると、土の酸性度合いが保たれ、水もちもよくなります。地植えは、2週に1回ほどを目安に水やりをしてください。乾燥した日が続いたなら、水やりの間隔を短くし、雨が降ったなら間隔を長くするといった調節が必要です。

ブルーベリーの生長に必要な成分は、カリ・リン酸・窒素の3つです。それぞれの成分を多く含んだ緩行性化成肥料を土の中に混ぜるか、土の上に置いてください。

- カリ：根の生長に役立つので、休眠期から目覚める2月頃に1回与えます。
- リン酸：花と果実を大きくする成分で、3~4月頃に1回与えます。
- 窒素：葉と枝を大きくする肥料で、8月下旬頃に1回与えます。

※キンモクセイ

キンモクセイは「陽樹（日当たりを好む樹木）」です。陽樹の中でもさらに日光を好む部類に入るので、日当たりのよい場所で育てるのが第一条件です。日照不足になると枝がひょろひょろに育ったり、常緑樹なのに葉を落とすこともあります。

通常は日当たりのよい場所でも、梅雨時期など日の当たらない時期が長く続くと今年伸びた新しい枝の葉をぼろぼろと落とすことがあります。新しい枝の葉が落ちるときは病害虫より前にちゃんと日照が確保できているかを確認しましょう。やや寒さに弱く、植栽（地植え）可能な地域は一般的に東北より南になります。

肥料は地植えの場合、2月頃に骨粉や鶏糞、草木灰などリン酸やカリの多く含まれたものを与えます。油かすなどチッソ分の多いものを与えすぎると枝葉は茂りますが、花つきが悪くなるので気を付けましょう。水はけが良く、肥えた土が適しています。やせ地に植える場合はあらかじめ堆肥や鶏糞を混ぜ込んでおく必要があります。鉢植えの場合は赤玉土7:腐葉土3の割合で混ぜた土を使います。